

新たな感染症とともに



保護者の皆様へ

短い夏休みが終わって、2学期が始まりました。子どもたちの様子はいかがでしょうか。

私たち小児科医は心配が尽きません。それは、「新型コロナウイルス感染症」自体ではなく、この混乱した社会状況における子どもたちの心と体が心配なのです。感染症については、多くのことが分かってきており、性質が見えてきました。最近、根拠が不十分な海外の報告を用いた報道が目につきますが、ほとんどが日本の子どもたちには当てはまらず、心配する必要はありません。

富山市内でも感染者が散発しておりますが、学校から社会へ感染拡大はしておりません。これまでどおりで大丈夫です。行事の計画も進めていきます。

「太陽が輝く限り、希望もまた輝く」ドイツの詩人シラーの言葉です。情報に惑わされず、希望そのものである子どもたちを、温かく見守っていく社会であってほしいと願っています。

富山市立学校 新型コロナウイルス感染症対策検討会議
座長 種 市 尋 宙



恐れないで… 今こそ大人が冷静に！

全国では毎日子どもの感染事例が報道されており、不安に感じておられる方もいらっしゃると思います。

本検討会議を5月末に立ち上げてから、新型コロナウイルス感染症に関する研究が進み、多くのことが分かってきましたが、当初からの対策や方針等に変更は生じていません。もしも、お子さんが感染しても、日本の子どもたちの重症化は極めて少なく、症状も軽微です。

子どもの感染について、台湾の研究があります。濃厚接触者2761人を解析し、2次感染に対する追跡調査の結果、発症から6日目以降は、陽性者から他の人に感染させることはありませんでした。

現在の退院基準は、発症後10日であり、退院後の社会復帰、登校は早期に行うことが望まれます。

そのためには周囲の温かい目、声が必要です。感染者を思いやり、安心して受け入れてください。

もし、学校関係者の感染が分かったら…

児童生徒等や教職員の感染が分かった場合、1～3日の臨時休業をする例が多いようですが、濃厚接触者等の特定に時間を要しない場合は、必ずしも臨時休業の必要はありません。感染対策を講じている学校では、濃厚接触者に特定される人は、ほぼいないと想定されます。

【PCR検査を受ける人】

(1)濃厚接触者…①患者と同居あるいは長時間の接触があった者

②手で触れることのできる距離(約1m)で、必要な感染予防策なしで患者と15分以上接触があった者

(陰性でも最終接触日から14日間は通学を控え、健康観察が必要)

(2)その他の接触者…濃厚接触者ではないが、念のため検査を受けることが適当だと思われる者

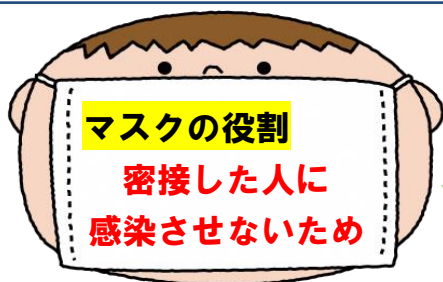
(陰性であれば、行動制限なし)



マスクを外せなくなった子どもたち

熱中症予防のため、登下校時や体育の授業においては、マスクを外すよう呼びかけています。しかし、子どもたちは、感染者数が増えている状況下で大人たちの様子も敏感に感じており、マスクを外すことに不安があるようです。熱中症の怖さを知らず、暑さを我慢することに慣れてしまい、「忘れたらどうしよう」「叱られたくない」「感染が怖い」という気持ちの方が、強いのかもしれません。

- ① **マスクには、自分自身の感染を防ぐ効果は、ほとんどありません。マスクは、自分が感染していた場合に、飛沫を飛ばさず、周囲の人にうつさないようにするために着けているものです。**



富山市立幼稚園の保護者の皆様に、マスクに関するアンケートを実施し、257名(約8割)の方から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

その結果、「**マスクは子ども自身の感染を予防するために着けている**」という回答が約半数を占め、マスクの役割に関して、誤解が多いことが分かりました。

- ② **日本の子どもに関しては、新型コロナウイルス感染症よりも熱中症の方が命に関わる危険が明らかに高いことは、文部科学省や専門家グループも指摘しています。**

今年は長梅雨が明けてから厳しい暑さが続き、東京都では、8月に熱中症で亡くなられた方が、統計が残る2007年以降過去最多となっています。富山県でも、令和2年 8/17～8/23 の間に、熱中症で救急搬送された人は78人(昨年同時期は28人)で、昨年の2.7倍になっています。

子どもたちは、危険な暑さの中で学校生活を送っています。

日本小児科医会からのメッセージ (8/4 付 一部抜粋)

- ・登下校の際は、バスや電車の中、人込みではマスク、それ以外ではマスクを外す。
- ・暑い、少し苦しいと感じたら早めにマスクを外す。
- ・友達と屋外を歩くときはあまり大声を出さず、顔と顔を向き合わせずに話す。
- ・授業中は話す機会が無い時はマスクをとる。

文部科学省

(8/6 付 衛生管理マニュアル)

気温・湿度や暑さ指数が高い日には熱中症などの健康被害が発生するおそれがあるため、

マスクを外してください。

国立成育医療研究センター コロナ×こどもアンケート 第2回調査報告(8/18)より

調査に協力した子どもの7割に、何らかのストレス反応・症状がみられました。小学生では「コロナのことを考えると嫌な気持ちになる」、中・高生では「最近集中できない」が最多でした。自由記載欄には、「友だちと遊ぶと怒られる」「給食をもっと楽しく食べたい」「外に出た時に、知らない人とすれちがうだけで怖くなる」「家族がコロナで死なないか心配」といった声が詰まっていました。

日本の新型コロナウイルス感染症陽性者数は、20代が桁違いに多く、次いで30代、40代、50代…と続きます。また、重症者割合、死亡率は60代から急増しています。

対策の強化が必要なのは大人であり、子どもたちには、不要な対策の緩和が必要です。

